

知的障害教育部門の教育

教育目標	<p>○身辺自立等の生活に必要な基本的な力を養うとともに、表現する力や考える力の向上を図り、地域社会に積極的に参加・貢献できる人間を育成する。</p>	
特徴	<p>○部門の教育を基盤に、学部段階に応じた教育内容を組織するとともに、肢体不自由教育部門との交流学习を積極的に行う。</p> <p>○3つの教育課程(「知的障害」、「自閉症」、「重度・重複」)を編成し、障害の特性に応じた教育を行う。</p> <p>○児童・生徒に合わせた、コミュニケーション力を伸ばす指導を行う。</p> <p>○外部人材を導入し、校外の専門家からの専門的な知見を得ながら、一人一人の障害特性に応じた指導を行い、より高い指導成果を目指す。</p>	
重点	<p>○児童・生徒の障害等に応じた指導</p> <p>○認知を高め、考える力を伸ばす学習</p> <p>○言葉・文字の獲得につながる学習</p> <p>○高等部への丁寧な進路指導</p>	
	基本方針	大切にすること
小学部	<p>○学習や生活の基礎を築くために、個々に応じたきめ細かな指導を通し、集団に参加する力を育てるとともに、コミュニケーション力の伸長を重視し、自己決定・自己選択のできる児童を育成する。</p>	<p>○低学年(第1学年～第3学年)で、学校生活の基盤作りを行う。</p> <p>○「してもらう生活」から「自分でする生活」へ徐々に移行し、自らできることを増やす。</p> <p>○自ら学習や生活の課題に向かうことのできる力を育成する。</p> <p>○社会の一員として、児童一人一人の実態に応じた友達や教師とのよりよい関係を育む。</p> <p>○人と触れ合うことの心地よさを感じ取り、生活及び学習に主体的に関わることのできる力を養う。</p> <p>○児童一人一人を理解し、支援の手立てを考え、3つの教育課程からなる学級の特徴を生かした指導を行う。</p> <p>○家庭との連携を密に図る。</p>
中学部	<p>○小学部の学習を基盤とし、一人一人が主体性をもち、高等部進学を含めた自己の将来について見通すことのできる生徒を育成する。</p>	<p>○自立と社会参加を促すため、人間関係を広げ、主体的に関わることのできる力を養う。</p> <p>○作業学習等を中心に、将来の社会生活を意識したキャリア教育を行う。</p> <p>○標準服を導入し、鹿本学園の生徒、さらには社会の一員として、TPOに応じた身だしなみができる力を育成する。</p> <p>○生徒一人一人を理解し、支援の手立てを考え、3つの教育課程からなる学級の特徴を生かした指導を行う。</p> <p>さらに中学部段階では、学習の状況や進度に合わせ、学級を越えた集団での学習も積極的に進める。</p> <p>○家庭との連携を密に図る。</p>